

# 「今、何の病気が流行しているか！」

## (川崎市感染症発生動向調査事業—令和5年第14週)の情報提供について

市内の定点医療機関から提供された感染症の患者発生情報をもとに市民提供情報である「今、何の病気が流行しているか！（令和5年第14週）」を作成しましたのでお知らせします。

令和5年第14週（令和5年4月3日から令和5年4月9日まで）

第14週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1）インフルエンザ 2）感染性胃腸炎 3）流行性角結膜炎でした。

インフルエンザの定点当たり患者報告数は3.57人と前週（4.51人）から横ばいで、例年よりかなり高いレベルで推移しています。

感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は3.41人と前週（3.27人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。

流行性角結膜炎の定点当たり患者報告数は0.78人と前週（0.22人）から増加し、例年並みのレベルで推移しています。

今週のトピックス

“新型コロナウイルス感染症～報告数が徐々に増加しています～”について取り上げました。

川崎市における新型コロナウイルス感染症の報告数は、令和5年3月上旬以降は毎週500件未満で推移していましたが、第13週（3月27日～4月2日）に543件、第14週（4月3日～9日）に695件と、4月に入り徐々に増加しています。直近4週間を、第7波及び第8波の初期と比較すると、10歳未満の小児及び10歳代の割合は減少していますが、60歳以上は第7波の9.8%から20.0%まで増加しています。特に60歳代では、第7波の4.8%、第8波の5.6%から10.0%と大きく増加しました。

4月末からの大型連休に向けて旅行や帰省等を計画されている方は、体調が悪い場合には無理をしないようにしましょう。また、咳や鼻汁など呼吸器症状がある場合は、飛沫感染を防ぐためにもマスクの着用をお願いします。

川崎市感染症発生動向調査事業では、感染症のまん延の防止と市民の健康の保持に寄与するべく、市内の定点医療機関（小児科定点37施設、インフルエンザ定点61施設、眼科定点9施設、基幹定点2施設）等から報告された感染症発生状況をもとに集計を行い、市内の感染症の発生状況の正確な把握と分析、市民や医療関係者への情報の提供を行っています。

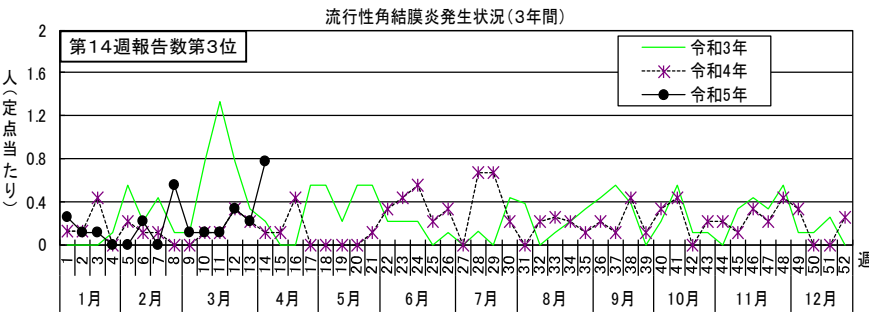
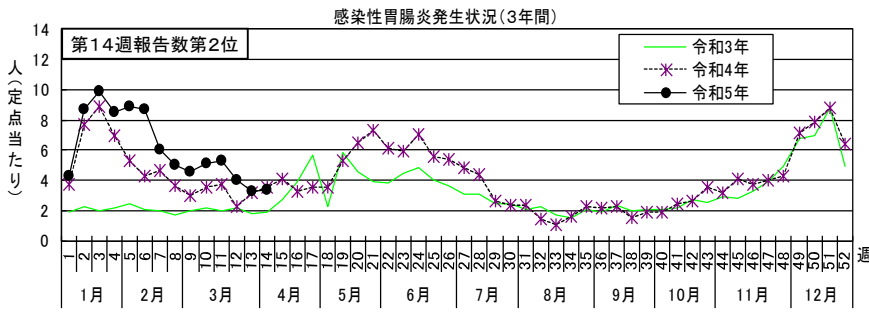
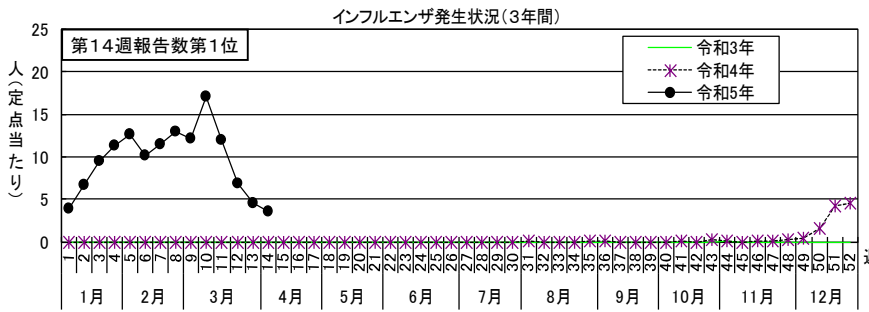
連絡先 川崎市健康福祉局保健医療政策部感染症対策担当 小田  
電話044（200）2446  
川崎市健康安全研究所 三崎  
電話044（276）8250

# 今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和5年4月3日（月）～令和5年4月9日（日）〔令和5年第14週〕の感染症発生状況

第14週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) インフルエンザ 2) 感染性胃腸炎 3) 流行性角結膜炎でした。  
 インフルエンザの定点当たり患者報告数は3.57人と前週(4.51人)から横ばいで、例年よりかなり高いレベルで推移しています。  
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は3.41人と前週(3.27人)から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。  
 流行性角結膜炎の定点当たり患者報告数は0.78人と前週(0.22人)から増加し、例年並みのレベルで推移しています。

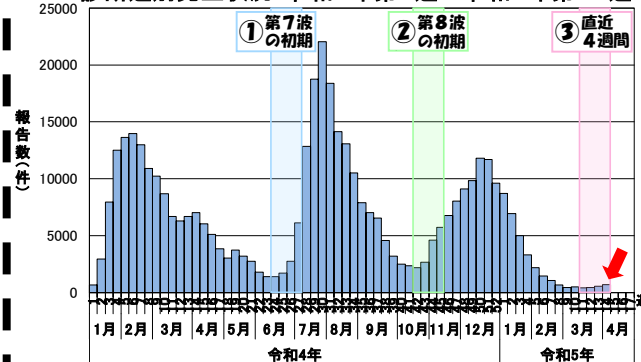


## 新型コロナウイルス感染症～報告数が徐々に増加しています～

川崎市における新型コロナウイルス感染症の報告数は、令和5年3月上旬以降は毎週500件未満で推移していましたが、第13週(3月27日～4月2日)に543件、第14週(4月3日～9日)に695件と、4月に入り徐々に増加しています。直近4週間を、第7波及び第8波の初期と比較すると、10歳未満の小児及び10歳代の割合は減少していますが、60歳以上は第7波の9.8%から20.0%まで増加しています。特に60歳代では、第7波の4.8%、第8波の5.6%から10.0%と大きく増加しました。

4月末からの大型連休に向けて旅行や帰省等を計画されている方は、体調が悪い場合には無理をしないようにしましょう。また、咳や鼻汁など呼吸器症状がある場合は、飛沫感染を防ぐためにもマスクの着用をお願いします。

川崎市における新型コロナウイルス感染症  
 診断週別発生状況-令和4年第1週～令和5年第14週-



川崎市における新型コロナウイルス感染症  
 年齢階級別発生状況の時期による比較

